



めたばる

発行

自衛隊目達原駐屯地
〒842-0032佐賀県神埼郡
吉野ヶ里町立野7-1
TEL.0952-52-2161



上記掲載のQRコードから目達原駐屯地ホームページを開覧できます。

巻頭の辞

九州補給処長兼ねて目達原駐屯地司令
陸 将 補 吉 野 俊 二



新年度を迎え、目達原駐屯地は、令和2年度の態勢を確立し訓練及び各種業務を着実・確実に実施しているところとす。

さて、駐屯地で予定していた観桜会及び一般開放は隊員一同、開催に向けて準備をして参りましたが、2月上旬から世界各地で感染が拡大している新型コロナウイルスの影響を鑑み、駐屯地司令として苦渋の決断をせざるを得ない状況となり、中止とさせて頂きました。駐屯地として、この非常事態に適切に対応できるように各部隊間の情報共有を図り準備を進めているところとす。皆様におかれましても、恐れず、しかし悔ることなく適切に対応して頂き、この難局を乗り切ってください。

また、平成30年2月に駐屯地所属ヘリコプター「AH-64D」の墜落事故を受け、再発防止策に基づく各種点検、操縦士や整備員の教育を実施し、安全性を確認した結果、3月6日に飛行再開、3月25日に場外飛行を迎えるに至りました。

地域住民の皆様が抱えられている不安を払拭できるよう、航空安全の確保に万全を期して、引き続き、あらゆる事態に即応できるよう任務に邁進していく所存です。今後とも駐屯地に対するご理解・ご協力のほど、よろしくお願ひ致します。

岩田 防衛大臣政務官 駐屯地視察

目達原駐屯地及び鳥栖分屯地は、2月14日（金）岩田防衛大臣政務官による駐屯地視察を受けました。
岩田政務官は、駐屯地司令による状況報告を受けた後、隊内において九州補給処整備部の合同整備工場や第3対戦車ヘリコプター隊を視察され、駐屯地及び在駐部隊の任務・役割についてご理解を頂きました。



状況報告受け（目達原）



合同整備工場視察（目達原）



視察を受ける第3対戦車ヘリコプター隊長（目達原）



ドラム缶の天板塗装状況確認（鳥栖）

井上 萬二氏による 部外講話



井上 萬二氏

駐屯地は2月17日（月）、佐賀県有田町在住の陶芸家である重要無形文化財（人間国宝）の井上萬二氏による講話を行いました。
井上氏は、「陶芸の道」と題して海軍時代の自らの体験と陶芸家としての人生経験に基づき、人生を力強く生き抜いた人生経験に基づき、生き方や考え方を語って頂き、努力の重要性及び人材育成の大切さについて学ぶことができました。



聴講する隊員達

かささぎのつぶやき

『田中3曹に申し訳ない！』陸曹候補生二次面接試験を終え、試験会場を出てきた瞬間に、十分な受け答えが出来なかったのか、ボロボロと涙を流しながら、出てきた受験隊員の姿が、八年以上前の試験を隠れて見ていた部長時代の記憶として今でも鮮明に蘇ってきます。

昼夜を問わず、直向きに愛情と期待と粘り強さをかけて指導してくれた先輩達に対する申し訳なさから出てくる涙の様でした。

自分自身、指導してくれた先輩達に対する申し訳なさから涙した記憶は五十数年来、一度もなく試験の何気ないところ、に、鮮明に記憶に残る現場部隊の隠れた感動のドラマを感じたところとす。あらゆる隊務において、階層毎に先輩が後輩を育て、後輩の実践する姿等を見て、先輩が育つとあった『育て合う雰囲気』が非常に滲み出ている部隊は、状況に応じてアメーバのように柔軟に形を変化させ、与えられたあらゆる任務を完遂できると、底力等を実感させられます。

引き続き、隊務の合間を活用した部隊の現場レベルの直向きな後輩指導等に感謝するとともに、部隊の『育て合う雰囲気』醸成に寄与しつつ、任務を全うできるよう努めていきたいと考えます。

九州補給処 副処長 龍太郎
1等陸佐 佐々木

※井上氏は、昭和4年有田町のご出身であり、15歳の時に海軍予科練へ入隊、昭和20年に復員後陶芸に携わり、昭和43年日本伝統工芸展への初入選を皮切りに数々の賞を受賞するとともに、平成7年、重要無形文化財として認定され、平成9年には紫綬褒章・平成15年には旭日中綬章を受章。日本国内のみならず、アメリカ等海外においても陶芸指導を行うとともに、現在も自身の窯を開いて作陶を続け、後進の育成に力を注いでおられます。

九州補給処

令和元年 第4師団ドローン競技会



統裁部による機材の設定確認



競技会の様子（福岡）

九州補給処は、令和2年2月12日（水）、福岡駐屯地で実施された令和元年度第4師団戦技競技会（ドローン競技会）に参加しました。

唯一災害隊区を保有し、この災害隊区が第4師団管内に所在することから、初動対処部隊のドローンによる情報収集能力の向上及び処の団結強化と士気の高揚を目的に参加しました。

処は、装備計画部平丸1尉を監督、総務部田中1曹（組長）及び松本2曹（操作手）を選手とし、処長指針である「出場するからには優勝！」を目標に目達原駐屯地内において、機材設定、飛行、組連携及び写真撮影等日々練成に励み、大会に臨みました。大会当日は、練成の成果を発揮し、参加11個部隊中、第6位の成績を修めました。

組長田中1曹は、「今回の競技会では、ドローンの運用において、組内の連携が最も重要であることを深く認識しました。また、練成、実施と大会参加には監督をはじめ、多数の方々の協力・支援があり、大会において優勝は逃したものの、練成の成果を遺憾なく発揮することができました。」

今後、災害発生時のために、ドローンの能力を最大限発揮すべく日々練成を継続するとともに、自らが学んだ事項を隊員に普及して、処としてのドローン操作能力、延いては、情報収集能力の向上に寄与していきたいと思えます。」と述べました。



駐屯地内で練成する選手、田中1曹（左）・松本2曹（右）

各部相互研修（補給部）

補給処は、2月17日（月）、補給部集約倉庫周辺において、宮古新編部隊に対する補給業務要領を研修しました。

各部の隊員は、補給部の補給業務の概要説明及びコンテナのバンニング・トレーラの積載要領等を見学しました。

（※各部相互研修は、各部の業務内容を研修することで情報共有及び理解促進を目的に実施しています。）



概要説明の状況



コンテナのバンニング要領の研修

西部方面後方支援隊

「創隊17周年記念行事」

西部方面後方支援隊は、令和2年2月9日、目達原駐屯地において、OB会長の久保様をはじめ多数のOBの方々と、ご家族の方々のご臨席のもと、隷下部隊を参集し、創隊17周年記念行事を行いました。

記念行事においてOB会長の久保様より祝辞を賜り、柳田隊長は、「今日の西部方面後方支援隊の発展は、歴代隊長並びにOBの皆様方が築き上げ、脈々と継承してきた部隊の伝統と誇りに支えられており、また、隊員が訓練・任務に邁進できるのはご家族の支えとご協力の賜物であることに感謝申し上げます。隊員一人一人が、西部方面後方支援隊の一員であることに誇りを持ち一致団結するとともにOBの方々とご家族皆様も含めて、一体感や帰属意識を醸成し、困難な任務を完遂していくため、



西部方面支援隊長柳田1佐

「副隊長離着任」

第9代西部方面後方支援隊副隊長池ノ本1等陸佐は、令和2年3月16日付で会計監査隊東部方面分遣隊隊長（朝霞）としてご栄転されました。兵站支援業務の豊富な経験を活かし、隊長を積極的に補佐され西部方面後方支援隊の充実発展に寄与されました。

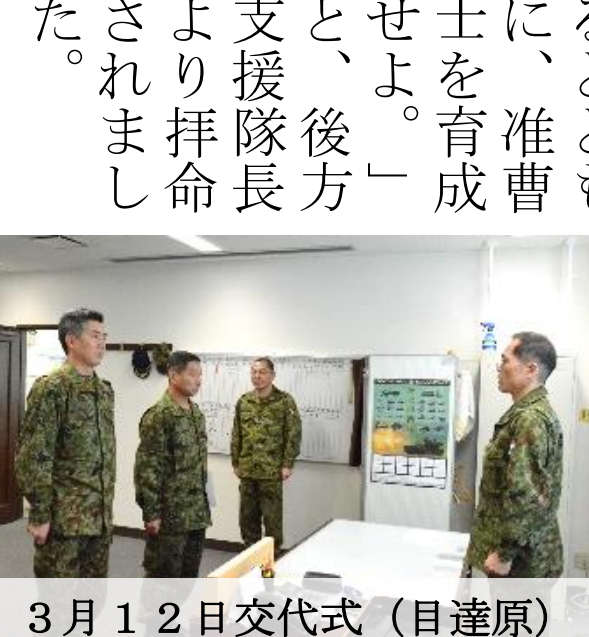
また、同日付で、第10代西部方面後方支援隊副隊長として、陸上幕僚監部装備計画部武器化学課化学室長（市ヶ谷）から楠松尚俊（あべまつ ひさと）1等陸佐が着任されました。

楠松1佐は、昭和47年2月15日生まれ、鹿児島出身。主要経歴は、第10化学防護隊長（守山）陸幕防衛部情報通信・研究課情報通信室計画GP長（市ヶ谷）陸幕通信システム・情報部指揮通信システム課指揮通信システム班長（市ヶ谷）等の職を歴任。趣味は、家族とのキャンプ・旅行。

「最先任上級曹長交代」

最先任上級曹長江渡和徳准陸尉は、平成29年8月1日から令和2年3月15日までの2年8ヶ月の間、第4代最先任上級曹長として「規律厳正で精強な部隊・隊員の育成」を要望事項に掲げ、服務面においては、末端に至るまで隊員の生の声をしっかりと聞き一歩踏み込んだ確実な心情把握に努め、各部隊の最先任上級曹長等と連携をとり、部隊行動の健全化を図る重要な役割を全うされ下番されました。

第5代最先任上級曹長として古賀隆伸准陸尉が上番され、「准曹士に係る隊務全般に、西部方面後方支援隊長を補佐するとともに



3月12日交代式（目達原）

「大分市1トン普通爆弾安全化」第104不発弾処理隊

令和2年3月8日（日）、大分県大分市において発見された、米国製1トン普通爆弾の安全化作業を行いました。これは、令和2年2月10日（月）、橋新設工事を行っていた工事業者が発見したものであり、その不発弾の状況から、現場から半径約500mを基準に警戒区域を設定し、同区域内の住民約3,000名の一時的避難や交通規制、同区域内のJRの部分運休などの安全対策が必要との判断により、処理隊は、約1ヶ月をかけて安全に処理するため、調整・準備を行いました。当日の安全化は、警戒区域内の住民の避難完了を自治体職員が確認した後に開始し、弾頭及び弾底の2個の信管を約1時間で抜き取りました。関係各機関の積極的な協力より、無事に任務を完了することができました。引き続き、不発弾処理技



弾頭信管離脱作業

ライナープレート内での安全化準備

3月8日（日）大分市大字鶴崎 乙津橋東河川敷

目達原駐屯地所属即応予備自衛官

「任期満了顕彰伝達」第105補給大隊

第105補給大隊第1補給中隊所属の即応予備自衛官である山辺靖広即応予備自衛官1曹は、令和2年2月28日から3月1日までの間、第26次即応予備自衛官招集訓練を最後に定年に伴う任期満了退職となりました。即応予備自衛官として平成11年4月2日から21年にわたり勤務され、この間、すべてで年30日の出頭日数を達成されました。特に、熊本震災においては、災害派遣にも出動される等、自衛隊に大きく貢献していたと評価されました。2月28日に目達原駐屯地において、西部方面後方支援隊長から任期満了に伴う顕彰伝達を執り行い、これまでの労をねぎらいました。

「集大成」第103弾薬大隊

令和2年1月から3月にかけて即応予備自衛官の基本弾薬特技検定を実施しました。4月隊員9名が受検し、平成31年3月部隊発足以来延べ12名の即応予備自衛官が特技を取得することができました。

また、4月隊員7名の即応予備自衛官が、出頭訓練日数30日を達成し、大隊戦力化に向け、常即一体となり訓練に邁進しています。



顕彰伝達式（目達原）



見送り行事（北熊本）



受入れ弾薬を照合する 樋口即予備士長

第3対戦車ヘリコプター隊

AH-64D飛行再開に伴う 岩田防衛大臣政務官視察

第3対戦車ヘリコプター隊は、3月6日（金）のAH-64Dの飛行再開以降、駐屯地内においてホバリング等の点検を実施してきました。3月25日（水）午前、岩田防衛大臣政務官視察の下、事故後初めてとなる駐屯地外における飛行を実施しました。また、当日は午後も引き続き所要の飛行を実施し、異常がないことを確認しました。これからは隊員一同「任務完遂と安全確保は不離一体」の認識の下、国民の負託にこたえるべく、日々任務に邁進してまいります。



駐屯地外に向かって離陸するAH-64D



地上試運転の状況



取材陣の前でホバリングをするAH-64D



場外飛行を視察する岩田政務官

西部方面ヘリコプター隊

予備自衛官招集訓練

西部方面ヘリコプター隊は、令和2年2月14日から同年2月18日までの間、予備自衛官招集訓練を実施しました。初めて担任する訓練でありましたが、予備自衛官の受入に始まり、被服交付、訓練説明、武器訓練、救急法及び野外衛生、射撃検定、体力検定、職種研修等の各種訓練を整齊円滑に実施することができました。特に、武器訓練においては、89式小銃を初めて取扱う隊員が多数いましたが、基幹要員の懇切丁寧な教育及び指導により、安全かつ円滑に射撃検定まで終了することができました。また、職種研修では、西部方面ヘリコプター隊が初めて担任する特性もあり、基幹要員の説明を熱心に聴講する予備自衛官の姿が見られ、基幹要員及び予備自衛官とも大いに成果のある訓練となりました。今回の訓練にたいと思っています。ある訓練にしたいと思っています。



武器訓練（銃の分解結合）



武器訓練（特殊武器防護）

職種研修

救急法（心肺蘇生）

第4飛行隊

OH-6Dラストフライト

第4飛行隊は、観測ヘリコプターOH-6D用途廃止に伴い、令和2年2月28日、駐屯地において、ラストフライト編隊飛行を行いました。ラストフライトを撮影した山口1曹は「OH-6Dの初搭乗は東日本大震災における行方不明者捜索であり、あの日から9年、思い起こすと感慨深いものがあります。」とコメントしました。



OH-6Dラストフライト記念
令和2年2月28日（金） 第4飛行隊



ラストフライトのOH-6D 撮影：4飛 山口1曹

第321基地通信中隊

西部方面システム通信群第102基地システム通信大隊第321基地通信中隊は、1月20日（月）、令和元年度群銃剣道競技会に参加しました。

競技の内容は、団体戦、個人戦（幹部の部）（陸曹の部）（陸士の部）（女性自衛官の部）（新人の部）のそれぞれの部で行われ各隊員は自分の限界への挑戦、部隊の名誉のため、これまでの練成の成果を遺憾なく発揮し、団結及び士気がより高まる競技会となりました。



気迫を込めて競技する隊員

銃剣道（女性隊員）の部

西部方面管制気象隊第1派遣隊

西部方面管制気象隊第1派遣隊所属の別府3曹は、1月13日から3月6日までの間、都城駐屯地で実施された第8師団部隊格闘指導官集合訓練に参加しました。当初、素養試験が行われ合格者が70名中37名という狭き門であったにもかかわらず、それを見事突破し、その後も厳しい訓練を重ねて最終試験まで到達し、合格することができました。

部隊で4人目の指導官となる別府3曹は、諸先輩方と共に隊員の指導にあたることに今から胸を躍らせています。今後の活躍が大いに期待できる頼もしい隊員です。頑張れ！別府3曹！



先輩達に囲まれて笑顔の別府3曹（右から2番目）



団体戦で果敢に貫く隊員

西シ通群本部中隊映像写真小隊空中伝送班

空中伝送班は、3月6日（金）、部隊発足以来初の試みとなる群ナレーション競技会に参加し、災害派遣を想定した5分間の映像に対しナレーションを挿入し、その技術を競い合いました。群長及び防衛部システム通信課長をはじめとする各評価員の方々より臨場感や必要な情報を意識したナレーションであるか等、様々な観点から評価していただき、今後の練度管理及び錬成要領の資を得ることができました。引き続き即応態勢を堅持しつつ、映像伝送能力の向上に努めて参ります。



開会式

ナレーションを実施する隊員



状況付与

表彰式

曹友会
ふれあい家族いちご狩り

令和2年1月11日（土）、福岡県朝倉郡にある、らいおん果実園にて、実施された、佐賀・筑後地区曹友会合同事業の「ふれあい家族いちご狩り」に、目達原駐屯地会員家族29世帯99名が参加しました。当日は、天候にも恵まれ絶好のいちご狩り日和となりました。

参加家族は、8種類ある品種にどれを食べようか迷いながら、赤く色づいた甘いいちごの食べ比べをしつつ冬の果実を満喫していました。味に飽きのこないように途中から味をかえて食べるために、チョコレートや練乳を持参していちごを堪能する大人や子供たちも多く見受けられました。

また、園内にはいちごの沢山詰まったクレープ販売や、子供向けのいちごの貸し衣装やかぶり物を身にまとい記念写真を撮る家族もありました。



参加した会員家族は、家族間の絆を深めたりと、良い休日のひと時を過ごすことができました。

新型コロナウイルス対応
（駐屯地医務室）

駐屯地医務室は、3月5日（木）、新型コロナウイルス感染者が発生した際に備え、九州補給処総務部衛生課隊員によるタイベックススーツの着脱訓練を実施しました。

また、駐屯地は建物内における共用する施設等に対して1日に2回を基準に次亜塩素酸による消毒を実施し駐屯地一丸となつて防疫に努めています。



隊員相互に着衣状況を確認



スムーズに着脱出来るように訓練する隊員



次亜塩素酸による共用施設等の除菌

新着任部長紹介

九州補給処補給部長
2等陸佐 鈴木 由紀
出身 岐阜県
職種 化学科
統率方針 「和衷協同」



定年退官者・定年退官予定者

▽4月	西後支	牟田2曹
2416日	装計部	池田3佐
▽6月		
24日	整備部	黒川2佐